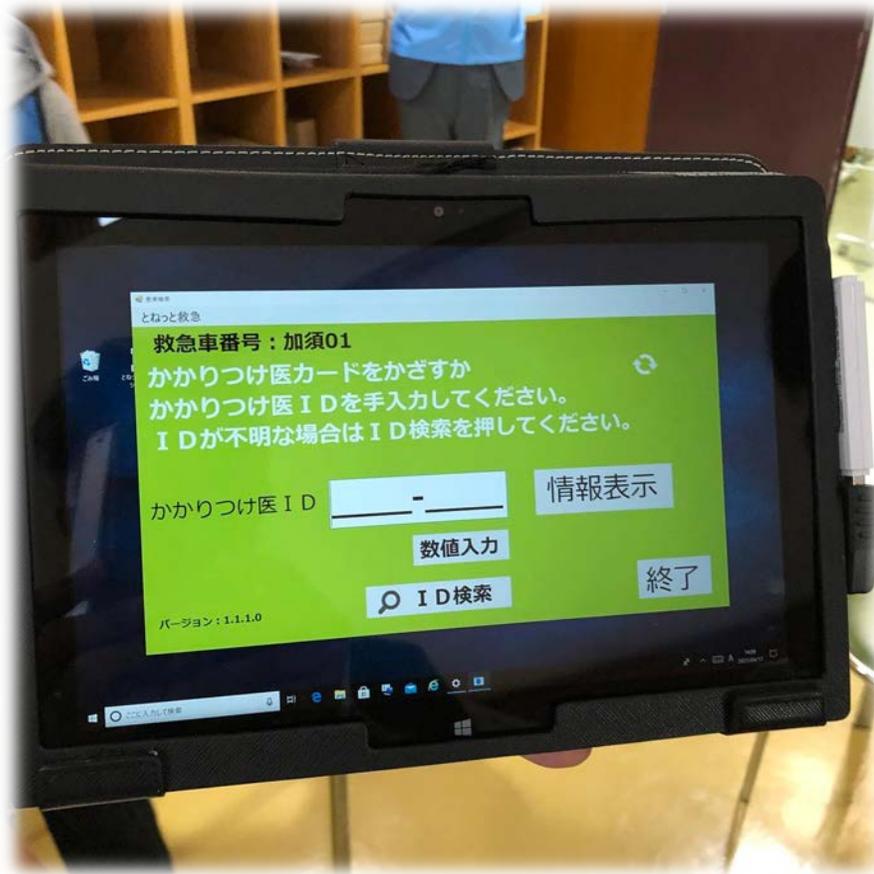


とねっとを活用した新型コロナウイルスワクチン 予防接種時の副反応に対応するための救急医療連携（案）

- アナフィラキシーショックは約20万人に1人（ACIP Jan 27, 2021より）
- とねっとは高齢者の5人に1人が加入
- 日常的に活用されているインフラを使用するため新たな利用料は発生しない。
- 医師会も行政も緊急時の対応をあらかじめ講じた説明責任を果たせる。



ワクチン集団接種時にとねっとの活用した救急隊との連携に関する先行事例（加須市医師会・加須市）



健康医療情報の活用。集団接種訓練の一部にて。新型コロナウイルスワクチン接種時に、必要であれば、病歴や処方およびアレルギー等を確認。また、副反応等で搬送が必要になった際には、緊急連絡先へ連絡するとともに、救急搬送にも活用されます。国難の中、これまでにない情報の活用を、自治体が積極的に進めることは、全国的にも先進的なことと思います。